

平成24年度

第2回 鶴岡地域審議会
会議録（概要）

期日：平成24年8月6日（月）

場所：鶴岡市役所 議会委員会室

平成24年度 第2回鶴岡地域審議会会議録（概要）

○ 日 時 平成24年8月6日（月） 午後1時30分～

○ 場 所 鶴岡市役所 3階 議会委員会室

○ 出席委員（五十音順）

五十嵐吉右衛門、伊藤俊昭、奥山春名、後藤輝夫、今野毅、齋藤春子、佐藤東一、菅隆、菅原衛、竹内峰子、竹田理英、田村勇次、茅野進、早坂剛、本間仁一、丸山絢子、三浦惇、山田登、若木敬一

○ 欠席委員

稲泉眞彦

○ 市側出席職員

企画部長 秋野友樹、教育部長 山口朗

管理課主幹（兼）学区再編対策室長 鈴木金右衛門、学区再編対策室主査 本間明

企画部次長(兼)地域振興課長 三浦総一郎、地域振興課長補佐 武田壮一

地域振興課地域振興専門員 三浦裕美、地域振興課主任 前田哲佳

○ 次第

1 開 会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 会長、副会長の選出

5 報告事項

（1）学校適正配置について

6 協議事項

（1）地域審議会協議テーマについて

（2）その他

7 そ の 他

8 閉 会

- 1 開 会 (午後1時30分) 進行：三浦裕美地域振興専門員
- 2 あいさつ (秋野友樹企画部長)
- 3 委員紹介 (紹介：三浦裕美地域振興専門員)
- 4 会長・副会長の選出
会長に早坂剛委員、副会長に齋藤春子委員を選出
- 5 報 告 (議長 早坂剛会長)

(1) 学校適正配置について (説明：本間明学区再編対策室主査)

○ 早坂剛会長 学校適正配置基本計画の概要についてご説明がありましたが、この審議会ではどのように捉えたらいいのか。また、こちらから提言は出来るのかということについてはいかがですか。

○ 山口朗教育部長 この学校適正配置につきましては、地域検討委員会での検討、さらに対象小学校区ごとの懇談会、それが進みますと統合準備委員会という形で検討を進めてまいりますので、地域審議会でご審議いただくということではなく、全地域に関わることでございますことから、状況についてご報告させていただくという趣旨でございます。

○ 早坂剛会長 検討会が別にあるということでお分かりいただけましたか。ただこの鶴岡地域審議会でもコミュニティという大事な内容が入ってくると思います。また、今日はPTA関係の方やいろいろな方もおられますので、何かありましたら提言していくことはよろしいですね。

○ 山口朗教育部長 はい。

○ 早坂剛会長 もう少し時間ありますので、せっかくの機会ですから質問ございましたら承りたいと思います。対象校として栄小学校、湯田川小学校、田川小学校、加茂小学校、小堅小学校、由良小学校。鶴岡市内のことで我々は考えていますから、この6校の地域に関わっている代表の方々もいらっしゃると思いますので、ご意見などありましたら。

○ 後藤輝夫委員 資料の1ページに学校適正配置のこれまでの取り組みで、平成22年9月から記載していますが、平成20年9月の段階で前教育長が議会で、このような意思を表明されたわけですから、突然出てきた計画ではなく、もっと前から真剣に考えていたということを、アピールしてもいいのではないのでしょうか。

○ 山口朗教育部長 ただ今その後藤委員ご発言の通り、この計画は検討委員会設置前から各学校関係者の皆さんなどを委員として、内部での検討を進めておりました。それを踏まえての取り組みでございますが、まだ十分な検討が足りないところもありますので、後藤委員からございましたことも踏まえまして進めていきたいと思っております。

○ 今野毅委員 私は栄小学校区ですが、子どもの減少傾向については目の当たりにしてお

ります。地区の中にいろいろな検討会があると聞いておりますが、残念ながら出たことはありません。おそらく昭和30年初め頃の市町村合併で、特に私どもの地域は歴史のあるところだったので、学校というものが一番核となる地域があったのですが、地域のコミュニティが壊れるのではないかと、また、どうなるだろうというところが、どの地域も共通だと思いますが、一番大きいのではないのでしょうか。そうなった時のコミュニティのあり方を前向きに話はされているのですが、その中でコミュニティと市の行政区で学校のあるなしにかかわらず、本当の広範な市民生活に関わることが、どのように議論あるいは方向付けされているのか。短い時間の中でただ学校のあるなしだけでなく、地域の本来または未来のあり方について、どのようにされているのか教えていただければと思います。

○ **山口朗教育部長** 学校がなくなることで地域が廃れる、地域の活性化が進まなくなるといった心配の声が各所で聞かれております。このことについては、鶴岡地域の場合はコミュニティセンター、郊外地については公民館が地域振興の拠点になっている現状から、例で申しますと、郊外地では社会教育の拠点としての公民館活動が盛んに行われているだけでなく、地域の防災、福祉、総合的な拠点という方向を目指して取り組んでいただいております。また、学校がなくなるとコミュニティセンターもなくなるのですかという質問もありました。地域振興と直接結び付けてお話されても、これは別ですとは申し上げられませんが、地域振興として何よりも核となるのは地域の地域力でございますので、市としてもこれまで以上に充分ご支援してまいります。ただ、今進めているこの取り組みは、教育環境の整備のための学区再編で、子どもたちの適正な教育環境を整備することと、地域振興とは基本的には別であります。今まで密接な関連を持って進めてきましたので、例えば、伝統芸能で子どもたちを後継者として育成しますが、学校がなくても地域で充分支えていけると思います。地域の取り組み方がこれから試されてくるのだと思います。学区再編の適正配置は決して教育委員会だけの取り組みではございませんので、地域振興、廃校後の跡地、支援の関係これらを一体的に進めて参りますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○ **今野毅委員** もう少し踏み込んでいただひて、少し歯切れの悪い部分だったように思ひます。学校のあるなしだけではなくといみじくも言われたことが、もっと前面に出すような関連性のあることが、先ほど後藤委員が言われましたが、子どもたちの良質な教育環境ということは皆わかると思ひます。漠然とした不安、モヤモヤがどうも払拭できないところを、もっとアピールすべきではないでしょうか。直接会議に行かなくても、そういう部分を感じますので、教育委員会だけの問題ではないと言われると同時に、この辺のことは煎じ詰めて話をすべきではないかと思ひます。

○ **山口朗教育部長** 大変ありがとうございます。これからも丁寧に地域に説明してまいりたいと思ひます。

○ **今野毅委員** いずれにしても、これはこの年度スケジュールに沿って進められることは変わりませぬ。納得しようがしまひが。

○ **山口朗教育部長** 本計画は27年度までの5カ年の計画でございます。28年4月の開

校に向けて取り組んでおりますので、教育委員会といたしましては、現時点ではこの計画期間内の統合を目指しているということをご理解いただきたいと思ひます。

○ **丸山絢子委員** 先ほど教育部長さんから跡地利用のことがありましたが、学校が統廃合されれば、最大で14校は廃校状態になり学校跡地として残るので、その後の利用として、コミュニティセンターや公民館など公共施設の可能性や、それ以外の形で民間への売却などもあるのでしょうか、学校の適正配置についてとなれば、教育委員会では適正配置に関することがメインだと思いますが、今回は地域の意見をまとめてどうしていくかということに主眼を置いていると思ひます。今後跡地利用が結果として大事になってくるでしょうし、利用されないことが一番もったいない状態だと思うので、今後地域審議会でご報告いただける時には、教育委員会なのかその後の部署での検討なのか分かりませんが、跡地利用やその後の利用方法について、できれば聞いてみたいと思ひました。

○ **山口朗教育部長** 跡地利用に関しては、地域を最大限に尊重して統合の意思確認をいただいてから、この地域をどうするかという具体的な検討や要望があがってくると思ひます。こちらで、統合した跡地についてのメニューや全体としての状況については、事前にお示しすることは出来ませんが、統合の意思表示をされて、地域としての利活用について、こういう要望があがっておりますという報告は出来ると思ひます。

○ **伊藤俊昭委員** 廃校になった場合の防災について、いつ災害が来るか分かりませんが、小学校やコミセンは避難場所としての最大の拠点になっていきます。教育委員会が管理している部分で、耐震関係の進め方はどのようになっていますか。跡地利用だけでなく、そういう後々の管理や耐震関係の安全性の指摘をきちとした形で、私も湯田川ですが体育館はかなり古いのですが、地域にとっては大事な避難場所になっています。いつまできちとした形を出していただけるかということも、地域としては大変心配しているところだと思うので、その辺も考えていただければと思ひます。

○ **山口朗教育部長** 学校施設、特に体育館関係は避難所に指定されていますので、教育委員会では、これまでも耐震について年次的に整備を進めております。今回の適正配置の対象となっているところについては、これからの方向性がはっきりしていないという状況ですので、保留している状況もございしますが、湯田川、田川地区は、合意ということもございしますので、これから具体的に避難所も兼ねている施設をどのようにされるか、地域の方も意見集約をされ要望があがってくると思ひますので、これからの検討になると思ひます。なお、教育委員会としては現時点でも、児童生徒が集まる大変重要な場所でありますので、どのような状況でも安全第一をモットーに施設管理を行ってまいりますので、ご理解をいただきたいと思ひます。

○ **後藤輝夫委員** 私は湯田川小学校区で教育委員会の説明会、懇談会や検討委員会に参加させていただきました。この会にはいわゆる子どもの親御さん PTA でない立場の方が多いので、跡地利用や地域が廃校後にどう変わるかということに対する、危惧や不安を持っているというご発言を聞いておりましたが、第四小学校の新しい校舎の開校にあわせて湯田川が

決断したのは、子ども達の教育条件が良くなるという若い親御さんたちの意志でございまして、まず新しい学校での子どもの学習条件を満たすことで相談しようと教育委員会に報告されています。その次の問題として、では学校がなくなった後の地域のコミュニティの変貌はどうかということ。そして旧校舎や校地の活用について検討し要望するということですが、私は特に伊藤委員がご指摘になられた校舎の耐用年数、強度の問題が教育委員会で、統合・廃校する建物については予め示していただいた方が、地域の発言、要望が出来るのではないかとということで、現在の校舎の利用について、どの程度解体したりして利用できるかということをお示しいただければありがたいと考えていました。

○ **山口朗教育部長** このことにつきましては、耐用年数も違いますので、統合に合意なされた時点で対応させていただきます。なお、湯田川小学校につきましては、特に体育館は築後50年経過している老朽施設でございますことは充分踏まえております。

○ **茅野進委員** 私の体験で教員の立場からですが、複式学級の担任もしました。実際子どもの活動や授業をやってみますと、非常に子ども達や教師への負担もありますし、さらに部活動、修学旅行、その他に関して、非常に阻害される面があったのではないかと考えておりました。また、校長をしました立谷沢小学校も統合してなくなりました。前例でなくなった学区地区の素朴な声など集約したものを、住民の方に報告されているのかどうか分かりませんが、そういう体験されたことをお知らせすることも、今後大事なのではないかと思います。

○ **奥山春名委員** 私たち家族は田川の環境、学校の場所、家の近所も含め素晴らしいところだと思い引っ越して来ました。まだ1年経っておりません。田川小学校に子どもを楽しく通わせていただいておりますが、残念ながら統合という話が引っ越しをして早々に聞き、できればこの学校でと希望していたものです。一応田川小学校はPTAとしても合意という形を私どもも聞いております。直接話し合いには出ておりませんが、合併に賛成という中で、仕方がないから合併というような印象の意見が、少し賛成の中に含まれているというような話を聞いております。そういう不安を持ちながら合意をしているという事は一つお伝えしたいと思います。学校規模の適正人数が出されています。今の段階でお話することではないのかもしれませんが、本当にこの人数でなければいけないのか。例えば小規模の学校があってもいいのではないかと思うところがあります。たくさんの人数がいるから競争、切磋琢磨するとは限らないと思います。自分を思い切り出せない子、こつこつと絵を描いたり本を読んだり静かなお子さんもいらっしゃると思います。大勢の中でどんどん競争して立派になろうと成長していく方もたくさんいると思いますし、逆に皆と競争しないで、自分の好きなものを認めてくれる先生や地域の方がいて、それを伸ばしてくれる環境があれば、自分の中で精神的に切磋琢磨できる子どもに育つと思います。市で小学校、中学校の学校の個性を生かして、いい学校をつくるという話が入っていましたが、例えば田川小学校には教育委員会では見学にいらして、どんな学校かというのを見ていかれたのだろうか。人数が少なく閑散とし子どもたちも覇気がないということであればいいのですが、もっともっと田川小のいいところを見て欲しかったと思います。子どもは少ないですが、地域の方々が、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんも一緒になっていろいろな事をしてくださっています。皆さんの中にはそれは大したことではないと思われるかも知れませんが、各小学校の良さをうまく残

して、コミュニティを盛り上げていくような体制が変わらない形で、統合することになってほしいと思いますし、なかには統合せずに、小さい規模でより文化的、スポーツに固執したとか何か特徴を持った学校が出来てもいいのではないかと思いますので、鶴岡市ではそういう小学校をある場所に設けるとい、独自の教育方針があってもいいのではないかと考えております。

○ **山口朗教育部長** ご意見ご質問が多岐にわたっており、全てにお答えできないかも知れませんが、小規模学校の方が特色ある学校運営が出来るといのはその通りだと思います。ただ小さな学校ですと、本来小学校で学ぶべき体験すべき様々な集団活動などが、体験できないデメリットもかなりあります。統合ということになりましたら、いろいろな取り組みや地域の伝統や特色を生かした活動などは残していきます。四小になったから全部四小地区の行事だけでは納得しないと思います。やはり田川小学校、湯田川小学校のそれぞれの伝統がありますので、そういうものを生かした取り組みをどういう形で残すかは、これから検討していかなければならないと思います。それから地域同意の関係については、検討委員会、各地域懇談会の代表の方からアンケートも取りながら、大方のご意見で同意を得たというご報告でありました。一部不安をお持ちの方がいらっしゃることもお聞きしています。そういった不安を解消するように教育委員会としても、これから統合準備委員会の中で具体的にお示ししてまいりますのでご理解をいただきたいと思います。それから田川小学校にも、教育委員はじめ教育長が何回か訪れ、田川小学校の良さは充分認識しておりますが、やはり小規模校と今回の基本計画で設定しています複式の様々な課題を解消するということが、今回の目標で検討を進めておりますので、大きな意味でご理解をいただきたいと思います。

○ **早坂剛会長** 皆さんから非常に貴重な意見を賜りましたが、どうしてこんなに熱心なのかと考えると、小学校区が地域のコミュニティを形成していますから、小学校がなくなることでコミュニティが壊れていくのではないかと、一番皆さん心配しているのではないのでしょうか。それから小学校区の複式学級を解消しまとめていくのが今回の趣旨ですが、奥山委員がおっしゃったような、規模は別にして特徴のある学校を出していくようなことが、これからはもっと大事になっていくのではないかと。例えば、いじめや不登校の子どもを受け入れるような学校とかが必要になってくるのではないかと。もちろんお考えになっていると思いますが、頭の中に入れておいていただければと思います。コミュニティを地域審議会で検討していくと、必ず子ども達の問題が出てまいります。やはり子どもがいないということが一番の問題ですから、子どもをどのように増やし、その地域に定住人口をどう増やすのかということもこれからの課題だと思うので、整理していくのではなく増やすということも、これからはもっと考えていくような施策が大事になっていくのではないかと。この辺をこれから提案するかもしれませんのでよろしくお願いたします。

○ **山口朗教育部長** 大変貴重なご意見、ご助言ありがとうございました。学校は統合となった場合でも、子どもは地域におりますので、地域の皆様にはこれまで同様に地域を担う子供たちを育成していただいて、地域振興ということで頑張りたいと思いますし、市でも当然それにあわせた形で一緒になって支援してまいりますのでよろしくお願いたします。

○ **今野毅委員** 今会長のお話を聞いて、都会に限らず自然環境豊かなまたはマンモス校でないところで、子どもは育てたいという親も少なくないと思います。鶴岡にもそういう環境が整備された学校も必要なのかと思います。その辺も考慮、議論の余地はあるのではないかと。また前向きに考えるべきことだと思います。環境、子どもの様々な素質・素養、親の教育理念がありますから、大規模校イコール良質な教育環境ということではあながちならなないと思いますので、早坂会長のおっしゃったこと本当に大事なことだと思います。鶴岡に定住化を含めて、子どもたちをこんなところに住ませたい、鶴岡にそういったところがあるのだというアナウンスの仕方とか、私からもなるほどいい話だと思いますので、検討の余地があればお願いしたいと思います。

○ **山口朗教育部長** 重ね重ね大変貴重なご意見ありがとうございます。今は適正配置であり、小さい学校の複式学級を解消し適正な規模の学校ということで、大規模校を作ろうということではございません。海沿いの学校、温海、朝日、羽黒などの山沿いの学校もまだありますし、統合されてみな大規模校になるわけではございませんし、各地域の特色を生かした学校づくりに努めてまいりますので、ご理解いただきたいと思います。

○ **早坂剛会長** 教育委員会の皆さん長時間ありがとうございます。これで学区再編の説明は終らせていただきます。またこの会の中でそういう議論がありましたら、後で教育委員会に提案してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

6 協議

(1) 地域審議会協議テーマについて

○ **早坂剛会長** それでは協議の方に入らせていただきます。皆さんにアンケートをお出ししてご意見を承ったものもありますし、それを付け加えたい方もいらっしゃると思いますので、皆様からお一人ずつ承りたいと思います。では山田委員からお願いします。

○ **山田登委員** 前に3. 1 1の大震災を受けて地域の防災はどうあるべきかという話し合いも進めておりましたが、町内の若手役員から、実際の現場を見て検証する必要があるのではとの提案があり、宮城県石巻方面に視察に行ってきました。肉親の方を亡くされ、そして町内会の活動に参加された方の貴重な体験を聞きながら、町内会ではどういう活動をすればいいのかを伺ったところ、全て完全にやれるという計画は立てにくいのではないかとのことでした。地域活動が日々充実し地域の人が仲良くなっていれば、いざ何かあった時は絶対大丈夫で防災に強い地域になっているはずだから、あまり細かいことは考えず、地域がとにかく活性化するような活動を日々充実してやること。防災の視点をいろいろな想定をしてやることにより、何かあった時に町内の人たちが心を一つにして集まり、避難、助け合う力が発揮できればいいのではという話を聞き、なるほどと思いました。町内に新しい公民館があるので、子どもたちが合宿して楽しい催しを企画したいとの話がありましたが、防災の視点から見れば、いざ何かあった時には実際やらなければならない。公民館に集まり一緒に泊まることも防災に結びついていくということで、やはり足元の地域活動を充実させるには、役員の体制もあります。日々どうあればいいか、具体的な活動の充実を図っていく施策を積極

的にやっていくことが、地域経済を活性化し防災に強いまちづくりにもなっていくのではないかと、今回の防災の研修を通して、もっと話し合いを掘り下げていく必要があるのではないかと思います。

○ **本間仁一委員** 自治振興会連絡協議会から参りました。私は海岸の小堅地区ですので、そのことも踏まえてお話をさせていただきます。振興会連絡協議会の会長を受けてから、市主催のいろいろな会議に出席し話し合いをしておりますが、市では地域コミュニティについてどうあるべきかを一番大きな問題と捉えています。例えば、地域コミュニティのあり方検討委員会、自治組織住民代表者会議でもそういう話が出ますし、いろいろな地域の自治組織はどうあるべきかが根本にくるのかと考えております。私も地域の自治会長を10年ほどしており、これまでもある程度いろいろな会議に出させていただいていますが、合併してから東北一広い面積を有し自治組織も470くらいあるとの説明を受けていることから、地域の課題も多くあるのかと思います。代表者の会議に出席しますと、会長の選出がまず困難でなり手がいないということで、自治組織の維持が非常に危ぶまれている地域もあると聞いていました。市では課題解決に代表者を集めての研修会や対策に努めていることはよく分かりますが、現状ではなかなか難しいだろうと感じています。それは自治組織の代表者というのは、住民と市との中間におり、いわゆる連絡業務に追われている形で、主体的に地域の組織として考え方等がどうも発揮できていないのではないかと思います。私はもっと代表者が地域の課題解決をすることで、自信とやりがいを持てるような形に行政側も配慮してもらえればありがたいと思っています。具体的に言うといろんな課題があっても住民は、やはり議員に直接話持っていった方が早いということで、議員が市に話をするというのが一般的なパターンと聞いています。そうではなく住民の自治組織がありますので、そこがもっと主体的に動いて、市に対してものを申したり話し合いなどをすれば、自治組織そのものが、もっとやりがいや自信を持った、あるいは解決する自信を持ってもっと突っ込んでいけるのではないかと最近思っています。議員さんも住民から言われると断る事はなかなか難しいのはわかりますが、もう少し住民の自治組織、自治会、住民会といろいろありますので、そういう所の力を発揮できるように、市も考えてもらえればありがたいのかと常々思っているところです。例えば、議員さんからこういうことをやったから、後はそちらでと言われた事があり、知らないことを勝手にやって、後はそちらでという話はあるのかと言ったこともあります。そうではなく自治組織というものを、もう少し全面に出して運営出来るような形に市側でも考えてもらいたいし、そういう内容を知っていれば代表内でもやりがいが出ると思います。

○ **今野毅委員** 引き続きになりますから、あえて再度という部分では特別なところは持っていないませんが、前回からの引き続きということもありますけども、どんどん人口が減っていきこの鶴岡地域がどうなるのだろうという時に、農業団体の長という立場では、地域経済の活性化をどのようにするのかという漠然としたところは、やはり大きく思っています。私以上に早坂会長も思うところでしょうけれども、その辺を是非今回の審議会では考えていきたいと思っています。前回は観光資源、地域資源、伝統文化、風光明媚な自然も含めた様々な資源をどのように生かして、人を呼びいわゆる交流人口の拡大の仕方、この辺で地域経済の活性化にどう結びつけるかという話を、分科会の代表をさせていただいて、皆さんとのいろいろな議論の中で提言をまとめましたが、引き続きこの辺をもっと深掘りした話をしていけ

ればと思います。何かについてどうのというよりも、もっと鶴岡地域の方々、これはもっと広い意味での鶴岡も含めますが、この地域をどう思うとか、あるいは先ほどから話をしている様々な資源というものに、どう付加価値をつけ高めていくのか。あるいはどう発信していくかということ、もつともつと先ほどの教育のことではありませんが、地域全体の活性化、そのための深掘りと言うものは何なのかということ。私は農業というものを介しながら、あるいは様々な各団体のご意見をいただきながら、限られた時間で限られたものになるのかと思いますけど、そのように時間を持たたらいいのではないかと考えているところです。少し抽象的ですが、そのためにいろいろな議論をしていきたいし、また必要なのではないかと考えています。

○ **五十嵐吉右衛門委員** 私は引き続きですので、今回は産業経済部門に所属し感じたことを申し上げます。市としても平成24年度から26年度までの細かな計画が出されています。それに基づき昨年度も審議会で各々のコミュニティと産業経済について、両部会に分かれて審議してきました。文化教養部門はコミュニティ活動に入りますが、その他に生活環境部門、産業経済活動部門については、私も森林関係のことをしていますので所属していますが、審議会で農業、林業、漁業関係について、また今野委員が言われたとおり昨年度まで提起された問題も今後もっと掘り下げながら、例えば、産業部会においては再生可能エネルギーの問題は、今の進捗状況はどのようになっているのか。もっと掘り下げた議論をしながら、これからの鶴岡市の振興策を考えるべきではないかと考えております。農業についても、付加価値の高い生産体制を確立しなければならないので、市の農業、林業あるいはそういったものの指導体制の強化が必要ではないかと考えておりますし、提起されましたことについても細かく問題化されておりますので、掘り下げて議論する余地があるのではないかと考え、この審議会についても、今後またコミュニティ部会、産業部会をやるのか分かりませんが、今日皆様のご意見を聞きながら方向性がはっきりするのではないかと考えています。

○ **田村勇次委員** 仕事柄浜からの視点が中心になりますが、景気は浜からと言われていますが、昔に比べれば船の水揚げも半分以下になってしまったり、漁業者を目指す子ども達もいなくなったりしている反響が、年々悪化していった関係で水産業もなかなか日の目を見ないようなところまできてしまい、このままでは水産業がなくなってしまうも同然になるので、国民の食料を支える産業の一つとして、山形県には庄内浜という海があること、皆さんや全国の方にも知っていただきたい。東京辺りに行くと山形県に海はないのではという方もおり、そういう誤解を払拭しなければいけないということで、一生懸命やっていきたいとします。水産業がこれだけ廃れてというか食料産業の一つとして成り立たなくなった原因はいろいろあると思いますが、魚を消費する人たちが少なくなってきたことが言われています。平成18年度を境に魚より肉を食べる人が多くなり、古来魚食文化の日本で、今まで魚が日本人を支えてきたことが逆転したのは、子どもたちが魚を食べなくなりました。そして高齢の方々も魚を食べなくなりましたというデータもあることから、我々が一番危機に感じているのは日本人が魚を食べなくなったということです。鶴岡市が合併して旧温海町も一緒になり、当然港も増えた関係で水産業に対して本気を出してくれ一生懸命支援してくれていますので、我々の方からも提言していきたいとします。それから、新聞で見た方もいるかと思いますが、全国豊かな海づくり大会というのを本県に誘致しようという動きがありま

す。昭和56年から毎年沿岸の都道府県を中心に開催し、第1回大会が大分で今年は32回目の沖縄県です。27年度の富山県以降が決まっていません。お金が掛かるので手を挙げるところも少なくなってきた中で、例えば2,3年前の岐阜、再来年は奈良ですが、海の大会を川でやるような状況です。まだ開催してない県が宮城県や秋田県、海のある県が7つほどあり、特に本県の水産業振興のために誘致しようという動きがあり、知事も前向きですし、大変な効果があるのではないかとということで、県や市に要望しているところがございますので、皆さんにも協力願って何とか誘致したいと考えています。天皇皇后両陛下もいらっしゃいます。山形県に庄内浜ありと全国に発信したいと思います。

○ **三浦惇委員** 去年の5月から委員となりました。私は町内会、学区コミセンと去年から観光連盟の仕事をしており、ちょうどマッチした良い提言をさせていただきました。それぞれの場で議論を展開し意見交換し、非常に良かったと思っています。去年の部分は去年で終わりだと思い、今鶴岡市の抱えている様々な課題がありますが、何がいいのか考え提案としてアンケートを出しました。先ほど申しましたように、町内会、コミセンを通していろいろ考えられますが、一つは少子高齢化の時代に入っていますので、老壮青の活動をどう活発化させるかということで、生きがい対策としての生涯教育の推進を全市的に取り組んでみる。つまり生涯学習や生涯スポーツを一人一つという取り組みで活性化を図ってはどうか。ご存知のように鶴岡市は今社会教育を含めて、非常に進んでいるのではないかと考えていますが、私ども住民の置かれている地域の状況は、社会情勢が多様化され産業構造も変化し、そして、鶴岡の大企業も非常に危ない状態にあるなど、いろいろな条件からも働く人の構造関係も非常に苦しい状況でありますので、地域住民の生活安定基盤の確立というのが重要だと思っています。それゆえ、まずは市民共通の生きがい対策をあらゆるネットワークを通して、生涯学習の必要性を高めていく必要があるのではないかと考えています。私が言いたいのは専門分野での学習、競技対策としてのスポーツではなく、一般市民が参加できるようなシステムづくりが必要だということです。老・壮・青、高齢化時代の中における社会教育の安定化につながると考えています。今、社会教育委員制度や専門分野の登録制度などもあります。もっと強化を図っていくと同時に、いつも言われているコミセン体制を、もう少し地域住民を取り込めるような、人的なことも含めての確立が必要ではないかと思えます。そういう全体を通して、推進体制の確立を図っていくことが、つまり地域住民を巻き込んだ取り組みの強化に繋がっていくのではないかと考えています。活力ある鶴岡を考えて、一人一人の生涯教育・生涯学習を通じた取り組みを進めてはどうかと思っています。

○ **早坂剛会長** ありがとうございます。まだ多くの方がいらっしゃいますので、1人3分くらいでまとめていただければと思います。

○ **茅野進委員** 福祉の面からですが、脆弱しているコミュニティをどう活性化するのか。これがテーマでないかと思っております。特に人材育成、コーディネーターの育成をどう図っていけばいいかというのは、私が日常考えている事の1つの大きな分野です。団塊の世代が高齢化すると期待をしますが、私達の教育が悪かったからか、どうもすいませんけども、競争社会の中で生きてきたものですから、お互い見守り支えあうという感覚が非常に見えないというか、どう図っていくのか。第一番目に地域コーディネーターの人材の育成が大事な

のではないかと思います。第二番目は機能分担といいますか、各組織、町内会、コミセン、社協、体協、その他の機能分担とよく言いますが、その真ん中で共有する部分は何なのかということ研修して、上層部のリーダーが共有を図ることは大切なのではないかと。三番目は行政との連携を図ると言われていますが、幸いにしてこの度地域ケアネットワークというのが出来ました。例えば、市の健康課、包括支援センターといった団体、社協や学区等で連携を図りながら、今年度から町に入ってきたという動きを大事に育てていくことが、これからの地域の活性化になるのではないかと思います。

○ **竹内峰子委員** 私も茅野委員と同じく地域コミュニティの活性化をあげさせていただきます。私の場合は、子どもの成長の中で必要なものは、学校や家庭だけではなく、これに地域や地域の大人が関わることで、子どもは育つのではないかと感じていました。今回未来を担う子どもたちがよりよい環境のもとで、いきいきと育ちあえる環境整備の中に、今一番、鶴岡で問題になっているのが、高齢者世帯が増えつつある中で、高齢者一人暮らしの方また高齢者ではなくても一人で暮らしている方々が、どうしてもひきこもりがちで地域の中に出てこない。先だっても新聞に亡くなって何日か後に発見されたということがありましたが、なかなか地域に出てこない、地域の人たちと交わらない人たちが多くなりつつあるのかと思っています。できれば子どもたちにお年寄りの知恵、自分たちが長年培ってきた伝統芸能、地域にあるお祭りなどの伝承文化を、今の子どもたちに伝えて残すということを改めて考える必要があるのではないかと。三瀬でも脈々と続けてきた気比神社のお祭りや相撲大会などありますが、やはりそういった意味での伝承がなかなか薄れてきていると思いますので、地域の大人と高齢者との関わりあいで育む地域の子どものということで、アンケートを出させていただきました。

○ **若木敬一委員** 私の立場からでは、学校が減少するというところで学校の適正配置については、いろいろPTA等の会議では何かあれば話が出ているところであります。その中で、将来の私たち、将来の鶴岡を支える子どもたちでありますので、特に全国でも多いいじめ、犯罪等がなくなるようには是非お願いします。今はPC、携帯電話等での犯罪も多くなっておりますので、力も入れていますが更に力を入れて、ゼロになるようお願いしたいと思います。竹内委員からも出ましたが、私も少しお話ししようと思っていました。学校では勉強も当然しますし、家庭ではいろいろなことを親から教えてもらおうと思います。地域では私たちが小さい頃には、近所のおじいちゃんおばあちゃんから、いろいろなことを教えられ学んできたと思っております。最近はこのような学ぶことが、あまり近所でも話をする機会がございませんので、是非そういったことが出来るような、近所づきあいという形を取り入れていただけたら、いい鶴岡にもっともっとなっていくのではないかと考えております。

○ **菅原衛委員** 私は青年会議所に40歳まで参加しており、地域を若い目線で考えて何が出来るのかと試行錯誤をしながらやっておりました。なかなか結果が伴わないのですが、その時10万人前後や県外の地方都市の現状を見ますと、鶴岡市というのは何と恵まれているのだろうと実感したことがあります。今も職業柄他の地方の業者さんとの付き合いがありますが、資源や農産業にしても大変素晴らしいものがある。今日参加させていただきまして各種団体の皆様のご意見が大変素晴らしくて、人材という意味でも大変潜在能力があるところ

だと改めて認識させていただいています。その後に各PTAにも参加させていただきましたが、最近いろいろな役職が解け、子どもにも接する機会が少なくなってきた中で、何か生きがいを見つけないかと思っております。特に先ほどの教育委員会の現状といいますか、致し方ないところもありながら、地域性を見出せればということがありましたが、手が離れていった子どもたちを見ながら、孫の面倒を見たいというのが最近の願いになっておりますので、その受け皿をよりよいものにしたいという思いで、具体的には子どもの教育に対する地域のあり方を重点的に、ご意見させていただければと思っております。

○ **奥山春名委員** 先ほど申し上げましたが鶴岡に来てまだ1年経っておりませんので、地域のことも知らないことがたくさんあります。私はデザインの仕事、子どもや大人の方にも絵を教えたりしています。こちらに来てから市内の保育園のデザイン計画など、いろいろさせていただいて大変ありがたく思っております。最近の鶴岡タイムスに入っていました幼稚園の募集チラシも携わらせていただきました。私自身もほとんど家にいて仕事をしている状態で、子どもの様子はわりと長い時間よく見ていると思います。テーマとしては、先ほどありました合併に伴いこの先どうしたらいいのかということ、特色ある学校づくりということ市でも掲げていらっしゃるの、そのようなことに何かいいアイデアを出したり、皆さんと話し合いが出来ればと思っております。子どものことだけではなく、地域、子ども、職、就職ということもありますけれど、それは全部一つに繋がっていると思っておりますので、子どもの教育のことだけでなく、地域に人を集めるにはどうしたらいいのか、皆さんで総合的に考えられたらと思っております。学校関係では、特別支援教育を強化されているということですが、どのような考えなのかを詳しく知りたいと思っております。少し気になっていた点を挙げさせていただきました。

○ **菅隆委員** 私は鶴岡まちなかキネマを経営しております、まちづくり鶴岡で仕事をしておりますが、今回のメンバーの皆様を所属を見させていただいても、産業経済関係の団体の皆様、地域の代表の方もいらっしゃるということから、私としては、これからの産業の部分での新たな雇用創出というところまで、少し踏み込んだお話が出来るのではないかとということアンケートには書かせていただきました。それから五十嵐委員さんからも言葉としては出ていましたが、再生可能エネルギーの普及の問題といったことも産業に絡めた問題として、さらには防災や災害時の対応への問題を含めて、エネルギーの問題を話していければよろしいのかなと思、そのような内容を挙げさせていただきました。昨年までの議論がいろいろされているという前提ではあるかと思はしますが、私からも何かお話できるようなことがあればと思ひまして、この会に参加させていただきましたので、よろしくお願ひしたいと思います。

○ **丸山絢子委員** 私は今年の3月31日まで横浜市役所の職員として働いておりました。5年前に横浜市役所と三川町役場の職員間の人事交流があり庄内のことを知り、食べ物が美味しく自然が豊かなことが好きで、結婚を機にこちらに来ました。横浜市と鶴岡市では規模が全然違いますが、横浜市でやっていたことも参考になればということも含めて、意見が言えればと思っております。審議会のテーマというか3点気になったことがあります。一つは多くの委員の方がおっしゃっていましたが、地域産業の活性化について、特にこれは鶴岡市に

対してやって欲しいところです。同封されていた総合計画の中で、検討する、支援するという部分がたくさん出てきたと思います。今の自治体の運営状況はどこも財政的にもきついでしょうし、行政が担えるべき役割は限界にきている部分がある中で、細かい部分でそれぞれ小さい要望やニーズを、行政が一つずつクリアしていくことはかなり難しいと思います。その部分で民間企業や一般市民と一緒に事業に取り組めるのかという視点を、もっと取り入れて考えるべきではないかと思います。例えば観光政策をとっても、鶴岡市が観光案内所を運営すれば人件費、場所、地代も掛かりますし、そうではなく、今多くの観光政策や観光の一部を担えるのは、民間の企業さんなどたくさんいらっしゃると思います。そういう方々とのように連携を図っていくのか、市民を巻き込んで一緒に事業を組み立てていくのかなど、どの協議になってもそういう視点で考えを述べられたらと思いました。もう一つが行政組織がたくさんある中で、鶴岡市役所、ここだと庄内総合支庁もありますが、その中で今回食文化創造都市の推進という項目が計画の中にありました。食文化の創造都市推進がどのようなものを指しているのか知りたいことと、庄内総合支庁でやっている食の都庄内との違いや連携でもいいと思いますが、今後どうやっていくのかも知りたいですし、場合によっては私たちが提言という形にまとめてもいいのではないかと思います。最後が、結婚を機にこちらに来たということもあり、子どもの育成を市民と一緒にという部分で、子育て支援のグループや子育てグループの育成、ネットワークづくりなどが実施計画の中に特に記載がありませんでした。既に取り組んでいるので書いていないのかも知れませんが、やはり子育てをしていく中で、私は義理の父母の近くに住んでいるので、いろいろ相談には乗ってもらえると思うのですが、同じような世代、親またはもう少し上の世代、地域を飛び越えて子育てに興味のある父母の世代、祖父母の世代の人たちと、支援を受けながら子育てをしていけることが大事なのではないでしょうか。それは地域だけではなくて、そのようにやっていきたいという人同士が、連携するような仕組みづくりがあってもいいのではないかと思いますので、子どもの育成の中でも、ボランティアを活用した子育て支援のグループ育成やネットワークづくりという視点で協議を試みたいと思いました。

○ 竹田理英委員 先月まで行財政改革推進委員をさせていただきました。行革は公募で、その際にこれから鶴岡市としては、公募委員を増やしていきたいとありましたので、審議会も公募させていただきました。送っていただいた資料で分からない部分がありましたので、アンケートは自分の感覚で、地域の活性化になっていると思う鶴岡の観光や人物、自然をピックアップしてはなどというのを書きました。行革でもそうでしたが、行政側と委員側のギャップが随分あり、隣の丸山委員が他から来たということを知ってすごく新鮮だったのですが、行財政改革委員の中にも他から来た方がおられて、鶴岡の悪いところやPRが上手ではないことをどんどん言われていて、内よりも外から来た方はすごいと思いました。例えば、観光なら今は湯野浜がすごい。食文化なら早坂会長さんのところがすごい。だだちゃ豆やつや姫がすごいとかありますが、考え方やいろいろなものが世代や感覚によって違うと思います。例えば、鶴岡で有名な人となれば、子どもにとってはウド鈴木。年配の人にとっては藤沢周平先生。いろいろなものがあるので、いろいろではなく一つに絞ってみても面白いのではないかとアンケートに書かせていただきました。先ほど来、今野委員や田村委員のように地域の農業、漁業のことを考えた場合、やはり山形県は農業県だから農業が大事、日本海があるから漁業が大事という意見も大切にしなければならぬし、盛り上げて

いかなければならないと感じたところです。

○ **伊藤俊昭委員** 私はこの春に市長から辞令を受けたばかりの消防団長です。我々鶴岡消防団は平成の合併から今年やっと一枚岩になりました。今までは各庁舎に防災担当の職員がいましたが、事務局を一括して、新しく建ちました消防本部警防課でやるようになりました。団長が1人で副団長が6人です。東北一の地域の広い消防団になり、今現在3,250名くらいの団員いますが、我々自負しているのは平成生まれの団員から昭和20年来の生まれの60歳を超えた団員まで、一つの目的を持って地域防災に携わっています。その中で、若い団員が親にも話さないことや、消防のことでない部分でも相談があったりします。また、昨日は庄内大会といって酒田、鶴岡全部の庄内の団が競い合う消防大会がありましたが、一つの目的にOB、家族、集落の人も一緒になって応援に来たり、コミュニティというのは作られたものではなく、本当の意味での地域を盛り上げていることが、消防団活動の良いところだと私は自負しております。この地域審議会は旧市町村単位となっておりますが、いろいろな意見を持ち合い、一堂に会する場があるのか分かりませんが、合併したので全地域からの参加者を募った形での審議会をしていただきましたかっただと感じていました。例えば、地震の津波対策にしても、小堅会長さんがいますが隣の温海、鼠ヶ関まで庄内浜です。我々はそれを全部網羅した形で活動しています。旧鶴岡、旧藤島という感覚はやっとここ1、2年で取れてきた時期です。幹部も鶴岡から吸収されたような感じでいたのですが、最近では理解していただき、いろいろな活動を一緒にやれるようにやっとなった状態なので、是非この審議会も、全部の地域を網羅した形のものが出来て欲しいと思います。

○ **佐藤東一委員** 社団法人鶴岡青年会議所から参りました。アンケートに答えましたことを中心にお話します。テーマは人口減少に伴う若者のUターン推進についてです。現在鶴岡市は、人口減少に伴い地域経済を始めあらゆるところに影響を及ぼしていると思います。人口減少は転出者ばかりではなく晩婚化、未婚化などにより子どもの数も原因の1つと考えられます。人口は全ての源といっても過言ではありません。税金、事業所、雇用、消費などを生み、それぞれが歯車のようにしっかり噛み合うことで地域の活力や魅力へと繋がっていくものと考えます。それではどうしたら良いのでしょうか。出生率を上げるには地道な作業と経済的な部分を含む様々な条件、そして成果が出るまで長い時間が必要とされます。また、都会に対する憧れ、就職や進学のことを考えると若者の転出を防ぐことは非常に難しいと思います。私は一度転出した若者のUターンを推進し、またこの鶴岡に住んでもらうことこそが鶴岡の人口減少に歯止めをかけ、地域経済や地域活性化に大きな役割を果たすものと考えます。それにはまず今住んでいる我々がこの地域の魅力を再認識し、この地域を誇りに思えるような意識に変革する必要があると考えます。この地域に誇りを持っていない大人の言葉を聞きながら育った子どもが、また鶴岡に帰ってくるとは思えません。私もUターンしてきましたが、鶴岡の風景の素晴らしさ、山、海、平野、人、暮らし、全てが美しく見えました。もっとこの地域の歴史や文化、祭りなどに対し真剣に取り組み、鶴岡に住む人々の誇りに繋がる事業を増やすべきではないでしょうか。その事こそが若者のUターン増加に繋がり、他の地域で経験した事を持ち帰り、また素晴らしい鶴岡を築いていけるものと信じています。以上がアンケートに書かせていただいた内容です。人口倍増は経済四倍という言葉があります。まずは人口を増やすことが何よりも大切なことではないでしょうか。先ほどの学校の問

題など様々ありますが、人口減少による統合、合理化、そのこと一辺倒に尽きるのではないのでしょうか。先ほど会長がおっしゃいましたが、増やす努力といったことを、今一度真剣に考えて実行するべきではないのでしょうか。私も青年経済人そして子育て世代として感じるのは、とにかく絵に描いた餅が多いように思います。本当に実行して成果を出すための目標や目的を、もう一度皆さんで真剣に考えて、この鶴岡、子供たち、そして未来の鶴岡のために、我々が一丸となって取り組むべきではないかと思えます。非常に今日は、いろんなご立場、年齢の方いらっしゃって私自信非常に勉強になります。このことを鶴岡青年会議所に持ち帰りまして、微力ではございますが地域づくり、まちづくりのために尽力していきたいと思えます。

○ 齋藤春子委員 アンケートは出しましたが、意見ではなく問題点を出したいと思えます。総合計画や地域審議会ですらまとめたものを読みながら、反省を踏まえて項目だけ述べさせていただきます。鶴岡の防災計画というのは、例えば、避難所が何年後に出来るのではなくて、即刻という話があったと思えますが、もう3年目に入っていますので、鶴岡の防災計画の具体的なものを私たちがもっと把握しておかなければならないと思っております。それから総合計画の中で一番問題なのは地域のコミュニティ、地域づくりということが何よりの根底だと言われて、未だにそれが頭から離れませんが、そのコミュニティが防災力、福祉の問題、少子化、高齢化の問題も含めた形でどうあればいいのか。この間社会教育委員会の時にも、コミュニティのあり方ということで話し合われました。市としてはコミュニティの狙いをどう捉え、私たちはそれによって地域でどう話していけばいいのかという具体的な姿を、もう少しまとめていただければ、話し合いますとまとめることが出来ると思えますので、検討いただきたいと思えました。それから地域審議会ですらぐつときたのは城下町らしさがないということです。鶴岡はどこと言われたりします。私は、来年県の大会が鶴岡でありどこを案内すればよいのかとなった時に、例えば、致道館がありますが東北に一つしかない寺子屋で、そこで何をしたのかを、今の大人が子どもに教えられるかということで、鶴岡の良さについて私たちの勉強がまだまだ足りないのではないかと思えますし、そのことがもう一度鶴岡を見直すことになるのかと思えました。

○ 後藤輝夫委員 私の所属は老人クラブでございますから、老人の立場、視点で申し上げたい。これまで各委員さんのご発言の中に、三浦委員さんは少子高齢化、竹内委員さんは高齢化、そして茅野委員さんが高齢者福祉、佐藤東一委員さんは人口減少の問題、齋藤春子委員さんが地域コミュニティづくりについてのご発言がありました。これらをまとめて、理想よりも現実の問題を生々しくご発言させていただきたい。生々しくという事は高齢化が進んで地域の情勢が急変しているという現実であります。地域の環境保全はこれまでこうした高齢者、住民が貢献してやってまいりましたが、高齢者は身体機能や生活機能が低下している上に、一人暮らしの高齢者世帯が増えています。国のことは国土とありますが、鶴岡市の市土の保全のために伝統的に進めてきた活動や仕組みに、参加できない高齢者が非常に多くなっているという現実に対し、環境の保全活動を支援する仕組みを検討していきたい。支援する交付金の導入なども含めた上で、就労できる高齢者などの対策とあわせて、高齢者を含む一人一人の心が繋がる確かなコミュニティづくりをテーマにして取り上げていただきたいというのが、このたびの私の切り込んだテーマであります。

○ **早坂剛会長** ありがとうございます。皆さんからのお話を承りましたが、これからの進め方についてご意見を賜りたいと思います。前はこれだけのメンバーがおりましたので、コミュニティと産業・観光の問題について二つの部会に分かれましたが、今回はどのようにいたしましょうか。今いろいろ意見をいただき、後藤委員からも集約していただきましたが、コミュニティの問題、食文化、観光、雇用、人口問題といった、いろいろな問題が出てまいりましたがいかがですか。

○ **五十嵐吉右衛門委員** 昨年度までは二つの部会をして、その後に全体会形式でこの地域審議会をしておりましたので、また同じような方向ではないかと考えてまいりました。今日の皆さんの発言を聞きますと二つか三つの部門、先ほど申し上げました文化教養活動はコミュニティ関係に入るのかと考えておりますし、その他に生活環境関係は産業経済部門に入るのか。その辺をどう理解したらいいのかとと思っていました。先ほどこの審議会について、消防では旧市町村の枠をなくしたので、一律でこの審議会を結成するべきではないかという話もありますし、そのようなことを踏まえながら、皆さんのご意見を拝聴しながら、今後の地域審議会の形態をと考えております。

○ **早坂剛会長** 先ほどの伊藤委員のご質問に、事務局で答えていただきたいのですが。

○ **秋野友樹企画部長** 審議会を一つにして進めたらどうかのお話でございましたが、これは合併協定の中で地域審議会設置をうたっております。期間は27年3月31日までで、協定の段階で旧市町村ごとに新市建設計画を作りましたので、進捗状況や変更等があった場合にご審議いただくために設置している審議会ですから、一体での地域審議会は現在のところ考えておりません。ただ27年3月以降はどうするかという課題はございます。もう一つ地域審議会とは別に、鶴岡市総合計画審議会がございます。これは全市一体となり、それぞれの団体や地域の代表の方々から集まっただき総合計画を策定しております。全体的に議論する場でもございますので、そういう場を活用していただければと思っております。

○ **早坂剛会長** 前は最後に会長が一同に集まって提言書を提出しましたが、そこで議論することはしませんでした。今後は一度か二度くらいは一体となってやるように我々が提案してもいいのかと思います。まず鶴岡地域をまとめていき、各地域がまとまったところで意見交換することも大事かと思っておりますので、よろしくお願ひします。今後の進め方ですけども竹内委員いかがですか。

○ **竹内峰子委員** 今回はいいのですが、今後、人数が多いとなかなか議論が深まらないと思いますので、昨年のように分かれて、それぞれのテーマで話し合ったものを最後に持ち寄るといった方がいいかと思ひます。

○ **早坂剛会長** 今回新しく入っていただきました丸山委員いかがですか。今までのお話を聞いてどのように進めていったらいいのか。

○ **丸山絢子委員** メンバーの人数も多いことと、多分それぞれ専門分野や皆さんの考えて

いる項目がそれぞれあるかと思しますので三つですか。何となく今お話を聞いていると、引き続き産業関係の経済の活性化と地域コミュニティの関係、子育てや高齢者の関係とかということで、竹内委員もおっしゃっていたような2から3くらいの部会に分かれた方が、意見も集約しやすいのかと思いました。

○ 齋藤春子委員 地域審議会の大きな狙いと総合計画の違いについてはどう考えればいいでしょうか。地域もいろいろありますが。

○ 秋野友樹企画部長 地域審議会は合併当時のことが一つの目的です。それぞれ団体の代表の方や市民の皆様からお集まりいただいておりますが、22年度からそれぞれの地域で合併のことだけで会議を開くのではなく、地域をこれから良くしていくためにどうすればいいのかということに、いろいろ意見を出していただくこととしております。総合計画審議会では、個別に一つ一つ意見を出していくことは、なかなか難しいものがございます。先ほども申し上げましたが、ご提言いただいたものを、できるだけ市政の方にも反映させていきたいということで、この場で個別のことでも結構ですし、いろいろご提言を頂いただいたことが、総合計画の実施計画の中で、意見を踏まえた形で検討することも出てくるかと思っております。そのような位置づけでございます。

○ 早坂剛会長 市の総合計画が出来てから3年ほど経ち、かなり変化が出てきていると思います。基本の柱はいいと思いますが、細部に渡ればもっともって我々が深堀りをしていき、ここでもっと議論をして肉付けしていく。また変化することがあれば提案していくような対応は出来ますか。

○ 秋野友樹企画部長 総合計画は10年間の計画となっております。必要に応じ5年を目途に見直しをしますが、総合計画には実施計画がございます。これは実際の事業をどのように進めていくかということで、実施計画を策定する上で毎年ローリングかけますので、地域審議会でご議論いただいたことを、反映させることは出来るのではないかと考えております。

○ 早坂剛会長 実施計画はどこでやるのですか。

○ 秋野友樹企画部長 企画調整課で、地域審議会でのご提言なども踏まえ、各担当部署で総合計画に沿った形の事業的にどうなのかを検討して取りまとめていくという形です。市長ヒアリングも行い、県、国の方向性なども踏まえながら策定することになります。プライオリティや熟度なども勘案しながら、毎年ローリングをかけていくという状況でございます。

○ 早坂剛会長 その際に、例えばこちらの審議会にある程度落としたり、我々がそれについて提案したりするというやりとりは、あまりしないのですか。

○ 秋野友樹企画部長 決まる前の段階で11月に皆さんにご報告して、ご意見をいただいております。その時にご意見を言っていただければ、それを踏まえた形で実施計画を策定していく形になります。これは地域審議会だけでなく他の場面でもご意見をいただいております。

○ **早坂剛会長** 機会はあるということですね。話は戻りますが、今の部会を二つか三つに分けた方がいいのではないかとのご意見が出ましたが、テーマとして三つの部会とするならば、分野はどのように分けたいのでしょうか。先ほど申し上げたように、コミュニティ、産業関係、もう一つ生活環境という問題も出ましたが何かご意見ありましたら。

○ **三浦惇委員** 今回の審議会はこれまでの2年間の延長上か、新たなテーマで進行するのか。先ほど総合計画の話もありましたが、産業や観光の話も大分出ましたので、繰り返すのか、新たな提案していくのか。どのような進め方になっていくのでしょうか。

○ **今野毅委員** 前回、三浦委員たちといろいろな話をして一応提言というものは出ていますので、私は延長ではなくメンバーも変わりましたし、今日いろいろなお話を聞き、また新しい方からもいろいろ前向きなお話を伺えましたので、別の角度からの切り口で、鶴岡を考えると議論の場にすべきではないかと思えます。延長ではなく、新しい目線で議論しましょうと皆が思えば、そうなるのではないかと思えますし、私はそのようにすべきだと思います。

○ **齋藤春子委員** 少子高齢化で、子育てや学校の統廃合の問題での地域については、コミュニティの部分での感じがしますが、子育てで一番困るのは、市内は入園できなくて困っている。郡部の方は入れたくても子どもがいない。何にも是正されておられません。誰がやってくれるのかという感じですが、子育てのことは今まで具体的に鶴岡としてやってこなかったかと思えますので、子育てに関係のない地域はないので、入れてもらいたいと思います。

○ **早坂剛会長** 非常にいい意見が出てまいりました。人口問題というのは、子どもの出生率から始まり子育ての問題につながってきますので、鶴岡にとっても大きな問題であります。今齋藤委員からありましたが、幼稚園、保育園の入所にあたり旧市内の人たちは困難な状況にありながら、周辺の地域は子どもがいなくて困っているという現実があります。そういうことを大きな問題として、取り上げていくのもいいのではないかと思います。あとコミュニティの本来の防災、コミュニティにおける人材の育成などいろいろありますが、一つにしないで、コミュニティの中に二つ作ってもいいのではないかと思います。あと産業的なことは一つとして、三つの組み立てはどうでしょうか。子育てについて奥山委員いかがですか。

○ **奥山春名委員** 子育てということだけでくれないと思っています。子育てについて考えれば、産業のことも必然的に考えざるを得ないし、考えることで子育てがしやすくなったり、子ども増やそうと思ったり、コミュニティの核になっているのは、地域の方たちであり子どもであるので、どれもこれも分けられないと思っていますので、話し合いはある程度一つのこととして、総合的に意見をまとめていくのがいいのではないかと思います。コミュニティで、先ほど一人暮らしの高齢の方のところへの地域コーディネーターの育成とありましたが、例えば、町や中心部の知らないコーディネーターが来るのではなく、地域の中学生や高校生が、地域のおじいちゃんおばあちゃんたちを支えたり、参加してもらって育成するというような関連性を持って、皆さんの出したテーマを上手くできたらいいと思います。

○ **丸山絢子委員** 今まで出た意見の多くは関連性があると思います。ある程度項目を作らないと提言としてはまとまらないと思った時に、地域コミュニティの中には子育てや高齢者世帯に関する生きがいづくり、子どもと高齢者の連携を図ることでの伝統文化が継承されたり、逆に子どもは高齢者を支えることで連動が図られたり、地域コミュニティの中に子育てや高齢者支援、この実施計画の中で高齢者と子育てが別々に項目立てているものを、我々地域審議会では地域コミュニティという一つのくくりの中で、子育てと高齢者に関して、どのような考えが出来るかということ、提言として一つにまとめていくということと、今出てきたような産業環境という部分で、どのような形で経済活性化、産業活性化ができるのか。それと環境という面をセットで考えたほうが、関係性が生まれてくると思うので、先ほど私は三つぐらいと思いましたが、大きな項目を二つにして、その中で関連を立てながら項目を作っていくと、この鶴岡地域審議会らしい提言がまとまるのではないかと思います。

○ **若木敬一委員** 皆さんのお話を聞かせていただき、私はPTA連合会からの出席ですが、伊藤委員もいらっしゃいますけれども、約30年弱消防団の活動、地域の公民館長を数年、いろいろなことさせていただいておりますが、お話を聞かせていただきながら、市内には人がいるのになかなか出来ない。郊外地では人がいなくてなかなか出来ないということがありますので、今皆さんのお話で出ていたように、地域コミュニティと産業に分けて、いろいろな方々のお話を聞きながら、まとめていく方法がいいのではないかと考えております。

○ **早坂剛会長** 時間も少し経過していますが、まとまってきたのではないかと思います。前回と同じコミュニティと産業の二つの部会に分かれて、コミュニティでは地域コミュニティの人材の育成や子育て問題など、産業では再生エネルギー、農業、雇用の問題、Uターンで戻ってくる人への対応の仕方などを、一応テーマとして考えていただいてやっていくということでいかがでしょうか。

○ **三浦惇委員** 今地域コミュニティのあるべき姿というのを、この秋頃までまとめると聞いていますが、それとの兼ね合いはどうなっていますか。審議会での意見が提起されるような形になりますか。

○ **三浦総一郎地域振興課長** コミュニティあり方検討会が現在進行しています。あり方検討会で議論している内容は組織論を中心に展開していますが、ここでのコミュニティは子育てなどもあり少し広く、若干違うと感じています。

○ **三浦惇委員** それを含めて、重なってくるのではないかという感じがするものですから。

○ **三浦総一郎地域振興課長** 市ではそういった委員会の進捗や様々な計画が進められておりますが、後ほど今後のスケジュールで説明しますが、随時、進捗等についてはご報告を申し上げることで考えています。

○ **早坂剛会長** 同じような議論をして無駄にならないようお願いいたします。

○ **山田登委員** コミュニティのあり方検討会を今やっていますが、各町内会や各单位自治会から始まって、学区単位のコミュニティの中で、今どういう課題があるかということを検討しておりますし、また、先ほどから話があったコミュニティの中で起こっている課題や問題等についても話し合いをしていて、若干重なる面も出てくるのではないかと思います。今の段階はまだ具体的な問題というよりも、学区規模のコミュニティのあり方をどのように進めていくかという話し合いになっておりました。

○ **早坂剛会長** 話がオーバーラップしている感じはありますが、ここではもっと身近な問題を取り上げていく。またコミュニティの中で話し合えないような議題について議論していくということも大切だと思いますから、まず内容は別にして、コミュニティと産業の分野の二つの分科会に分かれるということで、後で一緒になって話し合い調整していくという方向にしたいと思いますがいかがですか。

(異議なし)

○ **後藤輝夫委員** 去年までのように二つの分科会という考えが多いようですが、質問して私の考えを申し上げます。これから24年度のうちに何回この審議会を開催するのか、また任期までの間に何回開催するかということで、二つに二つの小委員会を設けたとしても、総合計画実施計画の3ページには、市民生活、健康福祉、教育文化、農林水産、商工観光、社会基盤とあります。したがって産業経済とよく言われる農林水産や商工観光は一つに出来ると思います。もう一方のコミュニティや地域という言葉の中には、それぞれが考えていることが相当細かく具体性を持っている。市民生活、教育文化、社会基盤といったようなことを会議の回数によって、今日はこのことを2回目はこうという見通しがあれば大きくは二つでいいのでないか。もう一つは20人の委員で三つまたは四つに分散しますと、会議の日に都合が悪く欠席した場合、2、3人の話し合いとなってしまうので、20人が何回でどの位のことが出来るかという、基本的には二本立てでよいと思っております。

○ **早坂剛会長** 今ご質問ありました今後の予定は、大体年何回ぐらいですか。

○ **三浦総一郎地域振興課長** 年間4回から5回の予定です。今回が2回目ですから今年度は最大で3回となります。先ほど申しましたが、今日のように市の事業の進捗報告や説明が入ることもあります。また、年に1回くらいは外に出たの視察といったようなものも入れるとなりますと、会議形式での時間というのは、自ずと制限されてくるのかと思います。

○ **早坂剛会長** 新たにスタートし今日は学区編成のことを伺いましたが、年に4回から5回という事を皆さんからも知っていただき、新しい方もいらっしゃいますので、あまり前回にこだわらず新しいことに取り組んでいきましょうということで、是非やっていきたいと思えます。二つに分けるとして大体半分くらいでしょうか。こちらのほうに入りたいという希望があれば。事務局はどうですか。

○ **三浦総一郎地域振興課長** 事務局としては同数にした方がよろしいと思えますが、今日のご意見をもう1回まとめまして決めたいと思えます。

○ 早坂剛会長 皆さんいかがでしょうか。

(異議なし)

○ 早坂剛会長 事務局にお任せいたします。どちらにしても2時間くらいですので、分科会を半分以上やって、残りの30分くらいを報告しながらまとめるという会にしたいと思いますが、ご意見がありましたら進めながら変えていくことも出来ます。最初のスタートは二つの分科会に分かれるということだけ決めさせていただきます。分科会の会長さんをご指名ですね。

○ 三浦総一郎地域振興課長 後ほど会長さんと相談した上でお願いをいたします。

○ 早坂剛会長 お願いされた方はよろしく申し上げます。大分時間も延長しましたが、事務局から何かありますか。

○ 三浦裕美地域振興専門員 今後の審議会の進め方について、今回協議テーマを大きくコミュニティと産業経済としましたが、今日の皆様のお話を整理させていただき、大体半分くらいになるように分科会の所属をお示し、テーマが大きいことから、その中でサブテーマを設けて分科会方式でご議論いただき、全大会で報告することで考えております。次回は9月末から10月上旬頃で日程調整をさせていただき、また11月中旬頃には総合計画の実施計画について、委員の皆様からご意見を頂戴したいと考えております。その後にテーマについての議論も行いたいと考えております。また、年明け1月中旬から2月上旬頃で今年度の議論のまとめと来年度の進め方についての開催を考えております。

7 その他 なし

8 閉 会 (午後4時22分) (秋野友樹企画部長)